

78) 脊髄係留症候群に対する外科的治療

伊藤 康信・平野 仁崇
太田 徹・羽入 紀朋 (秋田大学)
笹嶋 寿郎・溝井 和夫 (脳神経外科)

脊髄係留症候群の小児11例の術後成績を検討した。内訳は腰仙部脂肪腫6例、脊髄披裂の術後4例、腰仙部脂肪腫の術後1例で、手術時年齢は1ヵ月～13歳(平均6歳6ヵ月)、女児7例、男児4例である。無症状が3例、凹足2例、直腸肛門の機能的障害1例、下肢の筋力低下4例、腰痛、尿失禁が1例ずつである。脂肪腫は dorsal type 4例、transitional type 2例である。手術は脂肪腫と硬膜を全周性に剥離し、untethering を行った。硬膜欠損部は Gore-Tex で硬膜形成し、recapping laminoplasty 及び椎弓形成術(L5)を行った。術後追跡期間は1ヵ月～2年6ヵ月で、無症状・早発症状例で神経症状の悪化はなかったが、晩発症状例で、膀胱・直腸機能の軽度障害が1例でみられた。手術適応ははまだ結論は出ていないが、無症状例に対する予防的手術に一定の効果を期待しうると考えられた。

79) methylprednisolone による外傷性蝸牛神経変性の防止

関谷 徹治・田中 雅彦
八木橋彰憲・嶋村 則人 (弘前大学)
鈴木 重晴 (脳神経外科)

小脳橋角部手術では、外傷性蝸牛神経変性によって術後難聴を生じることがある。これに対して、methylprednisolone 投与によって、蝸牛神経変性がどのような影響を受けるか検討した。実験は、我々の「定量的蝸牛神経変性モデル」によった (Sekiya T et al: Exp Neurol 161: 490 - 502, 2000)。Control 群、圧迫損傷のみ (compression 群)、methylprednisolone (Solu-medrol) を i.p.投与した群 (met 群) を作成した。2週間後、ラセン神経節細胞 (SGC) 数をカウントした。met 群では、compression 群よりも蝸牛全回転において、より多くの SGC 数が残存し、この傾向は蝸牛基底回転において統計学的に有意であった (p=0.002)。met によって外傷性蝸牛神経変性が防止できる可能性が示された。ここで示したような薬理的な neuroprotection 法を行うことによって、術後合併症としての聴覚障害の発生頻度と程度が軽減される可能性が示された。

80) 皮質動脈破綻による急性硬膜下血腫

西嶋 一智・吉田 昌弘 (古川市立病院)
大庭 正敏 (脳神経外科)

【はじめに】脳表の小動脈を出血源とする急性硬膜下血腫 (ASDH) は、脳実質損傷を伴わないため急性硬膜外血腫と類似して可及的早期の血腫除去により良好な予後を獲得できる可能性がある。【代表症例】68才女性。友人とお茶を飲んでいて突然の激しい頭痛、嘔吐で発症、直ちに救急搬送された。搬送中 JCS10から JCS 200、右瞳孔散大と悪化。CT で右 ASDH を認め、外来にて穿頭し可及的に血腫を吸引した後、全麻下に開頭血腫除去を行った。翌日までに意識清明となり、無症状で1週間目に退院した。【考察】過去3年間に当科で5例を経験した。外傷なし (特発性) 2例、ごく軽微な外傷2例、発症経過不明が1例。いずれも前頭葉脳表の小動脈からの噴出性出血であった。切迫脳ヘルニアを呈した2例で外来穿頭を併用、これらを含め4例はきわめて良好な経過をとった。vegetative となった78歳の1例は、発症時間不明で右 MCA, ACA の高度狭窄を伴い、術後広範な脳梗塞を生じたものであった。【結論】本疾患は外来穿頭術を含めた可及的早期の血腫除去で良好な予後を獲得できる。

81) 慢性硬膜下血腫の保存的治療および術後再発における ibudilast の治療効果

— preliminary report —

土肥 守・小笠原邦昭 (岩手医科大学)
鈴木 豪・小川 彰 (脳神経外科)
吉田 雄樹・黒田 清司 (高次救急センター) (脳神経外科)

【目的】慢性硬膜下血腫 (CSH) に対して、抗 PAF 作用や脳血管拡張作用を持つ ibudilast の治療効果を検討した。【対象】CSH による症状が軽度であるため保存的に治療を行った25例と CSH の血腫洗浄術後に CT 上血腫腔の残存/再発を認めた19例である。保存的治療群、術後再発群の各々で6例と9例を経過観察、19例と10例を ibudilast 投与とした。【投与方法】各群では血腫の増大や臨床症状の出現に応じて再手術を行った。Ibudilast 投与群では20～30 mg/日で経口投与した。投与開始2～4週毎に CT を行い追跡した。【結果】経過観察群では保存的治療6例中2例で、術後残存群9例中4例に増大を認め、手術を必要とした。一方 ibudilast 投与群では、保存的治療19例中15例で CT